

国語科(論理国語)学習指導案

実施日時 令和6年11月8日(金) 6校時
実施場所 2年1組(普通教室棟3階)
実施学級 2年1組(41名)
使用教材 池上嘉彦「記号を使う動物」
中村桃子「言葉がつくる男と女」
(『精選論理国語』三省堂)
授業者 川上 祥子

1. 単元名

言葉を見つめる ～「言葉の創造的な側面」を捉え、言葉の力について理解を深める～

2. 単元について

(1) 生徒観

2年1組は文系選抜クラスであり、学習意欲も高く、様々な活動に真面目に取り組む生徒が多い。ペアワークやグループ活動では活発に意見交換し、理解を深めようとする姿勢が見られる。しかし、筆者の主張を自分の言葉でまとめ直そうとすると、論旨のずれや適切な語句を選んでいない記述が目立つ。読みを深めるためにも教材に関連する複数の文章に触れたり、生徒自身の実生活から具体例を導き出したりする活動を増やすことが必要と考える。生徒は、本単元で初めて記号論に触れる。取り上げた教材には抽象的な表現も多くあることから、韻文作品等から具体例を生徒自身で探し、発表し合うことで理解を深める時間を作っていきたい。

(2) 教材観

「記号を使う動物」は、「符号」と「記号」の違いを確認することを出発点として、人間の言葉による「意味づけ」の営みの二つの側面を提示した上で、人間の世界認識のあり方を考察している文章である。一方、「言葉がつくる女と男」は、言葉を話し手個人の人間性やアイデンティティと切り離し、アイデンティティを構築するための「言語資源」とみなす新たな視点を提示した文章である。

現代社会は、あらゆる面で多様化が進み、私たちは新しい記号を生み出したり、多様なアイデンティティを構築したりしている。そのような社会の中で、言葉の創造的な側面を二つの評論文から読み取り、言語活動を通して柔軟なものの見方や考え方を広げることにつなげられると考える。

(3) 指導観

「論理国語」で取り扱う教材は、キーワード(「近代」「人新生」など)の基礎知識のみならず、教材の各文章に取り上げられている話題の背景を知っていなければ理解が難しい作品が増えてきた。そのため、多くの生徒が評論への苦手意識を強めてしまっている傾向がある。また、授業者自身も生徒の理解を深めようと説明をし過ぎる面があった。今回は、レギュレイトフォームを用いて生徒自らが見通しを立てていくことで、主体的に学ぶ姿勢を継続できる生徒を育成していきたい。

3. 単元の目標

- (1) 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解することができる。【知識及び技能】(1)ア
- (2) 「言語の創造的な側面」に関する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】B読むこと(1)キ
- (3) 「言葉の創造的な側面」について複数の文章を比較しながら理解を深め、自分の考えを論じようとする。【学びに向かう力、人間性等】

4. 本単元における言語活動

本単元の言語活動として、B読むこと(1)キ「複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりする。」に基づいて、二つの文章から読み取った「言葉の創造的な側面」を意識しながら、パフォーマンス課題に取り組み、相互に作品を読み合うことで読みを深める。

〈パフォーマンス課題〉

あなたは雑誌の編集者である。毎月エッセイを依頼している詩人 A さんが、突然海外旅行に行くことになり、来月号のエッセイを内緒で代筆することになってしまった。

詩人 A さんのエッセイは、雑誌だけでなく、公式 Instagram にも掲載されていて、幅広い世代の心を惹きつけるワードセンスで人気を博している。

来月号のテーマは「秋」で、字数は 500 字程度、締切は 11 月 14 日（木）となっている。

5. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 (1)ア	「読むこと」において、「言語の創造的な側面」に関する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。 B(1)キ	「言葉の創造的な側面」について複数の文章を比較しながら理解を深め、自分の考えを論じようとしている。 他の生徒の記述を参考にしながら自分自身の記述をよりよいものにしようと自ら調整しようとしている。

6. 単元の指導と評価の計画

次	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準	評価方法
1 ・ 2 ・ 3	・学習の目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・「記号を使う動物」を読んで、ワークシートに取り組み、「人間の『意味づけ』する営み」について、理解を深める。	・各段落の関係を意識しながら、言葉の記号性について、内容を整理し、筆者が「人間は記号を使う動物である」と述べる根拠を捉えさせる。	知識・技能	「記述の確認」 「行動の確認」
4	・身近にある「言語創造」の例を探し、互いの例を共有し、理解を深める。	・前時までに理解した内容を反映させた例を探すことを意識させる。	主体的に学習に取り組む態度	「行動の確認」
5 ・ 6	・「言葉がつくる女と男」を読んで、ワークシートに取り組む。 ・「本質主義」と「構築主義」の違いについてグループでまとめ、理解を深める。	・「言葉」と「アイデンティティ」の関係について、二つの考えを比較させながら、筆者の主張を捉えさせる。	知識・技能	「ロイロノートによる記述の確認」 「行動の確認」
7	・「集団のカテゴリーと結びついた言葉遣いの情報」について調べ、発表する。	・前時までに理解した内容を反映させた例を探すことを意識させる。	主体的に学習に取り組む態度	「行動の確認」
⑧ 本 時	・「記号を使う動物」と「言葉がつくる女と男」において「言葉の創造的な側面」をどのように論じているかをまとめたものを読み比べ、理解を深める。 ・「言葉の創造的な側面」を意識しながら、パフォーマンス課題作成に取り組む。	・二つの文章が論じている「言葉の創造的な側面」について、複数の生徒の記述を比較して理解を深めさせる。 ・ロイロノートの共有ノートを用いてグループで話し合うことで、複数の視点からアイデアを出すようにする。	思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	「ロイロノートによる記述の確認」 「行動の確認」 「記述の確認」
9	・互いのパフォーマンス課題を鑑賞し合い、相互評価する。	・互いの作品を、前時までに学習したことを意識しながら、鑑賞させる。	主体的に学習に取り組む態度	「行動の確認」

7. 本時の指導計画

(1) 本時の目標

二つの文章において、「言語の創造的な側面」についてどのように述べているかまとめ、言葉について理解を深める。

(2) 指導の評価と実際

	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
導入 5分	1 レギュレイトフォームを用いて、前時までの振り返りと本時の学習目標と自身の見通しを確認する。 本時の目標 二つの文章において、「言語の創造的な側面」についてどのように述べているかまとめ、言葉について理解を深める。	・タブレットを用意させ、事前にロイロノートを準備させる。	
展開 ① 10分	2 事前にロイロノートに提出した、二つの教材の「言葉の創造的な側面」についてまとめた生徒同士の記述を比較しながら、自身の文章を整える。	・各文章のキーワードや要素を押さえたまとめになっているかを意識させる。	【思考・判断・表現】 【主体的に取り組む態度】 「記述の確認」 「行動の観察」
展開 ② 25分	3 生徒自身がまとめた「言葉の創造的な側面」を意識しながら、パフォーマンス課題作成に向けて話し合う。 ①ロイロノートのシンキングツールを活用しながら、アイディアを出す。 ②各グループで出てきたアイディアを用いて、課題の大筋を考える。 4 課題の大筋をグループで発表し合い、互いにアドバイスをする。	・「語形と語義のずらし」や「構築主義」を意識してアイディアを出すように喚起する。	【主体的に取り組む態度】 「行動の観察」 「記述の確認」
まとめ 10分	5 レギュレイトフォームに本時の振り返りと次時の見通しを入力する。	・レギュレイトフォームに本時の振り返りを解答させる。	記述の確認

(3) 本時の評価規準

・「読むこと」において、「言語の創造的な側面」に関する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり、グループ活動を通して理解を深めたりしている。 B(1)キ

・レギュレイトフォームをもとに学習の見通しを立て、グループ活動で理解を深めたことを振り返ることで、自身の学習を調整しようとしている。

【A評価】

B評価の二つの文章の「言葉の創造性」をまとめる際に、具体例などを補足しながらまとめ、他者が理解しやすいよう工夫をしている。パフォーマンス課題では、「秋」に関する隠喩表現だけでなく、自分自身が理解した「言葉の創造性」につながる韻文作品等を引用するなどの工夫がなされている。

【B評価】

「記号を使う動物」と「言葉がつくる女と男」の「言語の創造性」について、比較する形でまとめている。それを踏まえて、パフォーマンス課題では、生徒個人が考えた「詩人A」のアイデンティティを構築したり、「秋」についての隠喩表現を工夫したりしている。

【C評価】

B評価に満たない生徒をC評価とする。

手立てとして、第1～3，5・6次で活用したワークシートで振り返りながら、キーワードを確認させ、文章構成も示しながらまとめさせる。

パフォーマンス課題においては、グループ活動で出てきたアイディアの活用例を示しながら、取り組ませる。